

2026.7
JULY
No.34

高知大学医学部附属病院広報誌
隔月刊【おらんくの大学病院】

RANK

RANK

2026.7 JULY No.34

高知大学医学部附属病院広報誌
隔月刊【おらんくの大学病院】

【発行日】2026年7月20日

【発行】高知大学医学部附属病院 総務企画課 総務・広報係 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 Tel.088-880-2723

「突破口」

臨床の問いを、未来の治療へ。

小児科 教授

池田 真理子

小児科 教授

池田 真理子

対
談

【ゲスト】

小児外科 特任教授

伊勢 一哉

50th ANNIVERSARY

高知大学医学部・旧高知医科大学開学

from 1978 to 2028



高知大学医学部は、
2028年に開学50周年を迎えます。
高知大学医学部開学50周年記念サイト
<https://www.kms-50th.jp>



高知大学医学部附属病院



<https://www.kochi-u.ac.jp/kms/hsptl/>



「突破口」

臨床の問いを、未来の治療へ。

小児科 教授

池田 真理子

(いけだ まりこ)

午前4時。追いつけた“バンド”が、フィルムに現れた。
治らないと言われてきた病気に、細い道が見えた瞬間だった。
その一本の道を、患者さんのもとへつなげたい。
今号は、28年ぶりに母校へ戻った小児科 池田真理子教授に、
臨床と研究をつなぐ医療の在り方について話を伺った。



ご一族が研究者ばかりと

お聞きし、その環境で育てられた

池田先生の経歴が

とても興味深いです。

はじめに、医師を志した理由や

小児科を選ばれたきっかけから

教えてください。

「注射が上手な 医者になろう!」

祖父も父も小児科医で研究者。母や母方の祖父・曾祖父も研究者という、いわば“研究者一家”に育ちました。家族全員が大学勤務というかなり特殊な家庭環境だったため、私は幼い頃から「医者になって研究者になり、不治の病を治すんだよ」という周囲からの言葉を、まるで呪文のように繰り返して聞かされて育ちました。

中学2年の冬にマイコプラズマ肺炎にかかり、北海道の山奥の病院に一人で入院することになりました。毎朝、先生が診察や採血に来てくださるたび、同室の方たちと「今日は注射が上手な先生でよかったね」「昨日の先生はちよつと痛かった…」などと、小声で品評会をしていました。そんな日々の中で「将来は絶対に“注射が上手な医者”になろう」と、とても具体的な目標を胸に抱いたことを覚えています。

その小さな目標が、

やがて高知との深い縁へと

繋がっていくのですね。

そうですね。その後、父の転勤で大阪へ移り、中学の後半から高校までを大阪で過ごしました。生まれ故郷である札幌での大学進学を望んでいましたが、縁あって、人生初の四国上陸は、高知医科大学の受験ということになりました。

いざ来てみれば、南国高知の柔らかな日差しと暖かい空気、のどかな風景、そして坂本龍馬をこよなく愛する人々の優しさに触れ、「良い場所に来たな」と納得したのを覚えています。クラブ活動や試験委員、同期や先輩との交流、家庭教師や飲食店でのアルバイトなど、振り返ると全てが楽しく、充実した学生生活でしたね。

留学先の学長に、 自筆の依頼文を送る!?

大学4年の時、「カナダの大学との交換留学が始まるが、臨床実習に行ってみないか」と教授に声をかけていただき、辞書を片手にFaxでブリティッシュコロンビア大学の学長宛てに自ら依頼文を送るという、今では少し信じられないような方法でやり取りをしました。現地では多くの小

児難病や遺伝性疾患の患者さんを診

る機会に恵まれ、この経験から、小児

科医として臨床に携わると同時に、

難病の原因遺伝子の研究に取り組み

たいと強く思うようになりました。

帰国後、早々に小児科への入局を

希望した際、当時の倉繁教授から

「君は一度大阪大学に行つて研究を

して、しっかりと力をつけてから戻っ

ておいで」と背中を押していただ

き、こうして私は再び高知から大阪

へと送り出されることになります。

教わる立場から、 次の世代を 育てる立場へ

大阪大学から

神戸大学などを経て

2025年、28年ぶりに

母校の高知大学に

戻られましたね。

高知大学にこうして戻つてこれだけことは、非常に感慨深く、学生当分の教わるだけの気楽な立場から、次の世代を育てる立場となり、身の引き締まる思いです。

一方で、“第二のふるさと高知に帰つてきた”という安心感もあります。頼もしい仲間たちに囲まれ、毎日が充実しています。

高知大学では、

管弦楽団の顧問も

務められていますね。

はい。前任の菅沼教授が理事に就任されるにあたって、顧問を引き継ぎました。

オーケストラは、一人では成立しません。誰かが旋律を出せば、誰かがそれを支える。ずれてしまつたら、合わせにいく。これは私たちが日々やっているチーム医療とまったく同じだなと思います。学生たちの練習を眺めています。診療でも研究でもない、学生さん達と過ごす時間は、思いのほか大切です。彼らは、とても純粋で、頑張り屋さんで、しっかりといてとても頼もしいです。

さてここからは、

池田先生の専門分野について

お尋ねします。

はい。私の専門は、小児神経筋遺伝性疾患をはじめとする難病の病態解明と治療法の開発です。特に、先天性筋疾患や神経難病は、原因遺伝子の同定から分子レベルでの病態解析、さらに核酸医薬などの新規治療法の開発までを一貫して行ってきました。近年は、ヒトiPS細胞を用いた神経筋オルガノイドモデル、尿由来の幹細胞などを活用し、ヒトの発生過程を再現しながら疾患機構を解明する研究にも取り組んでいます。

臨床で出会う「なぜ治らないのか」という問いに対して、基礎研究から答えを導き、最終的に患者へ



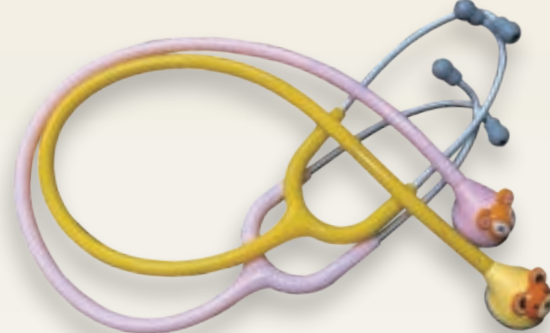
前顧問の菅沼成文教授(現・理事)と。医学部管弦楽団顧問のバトンを、引き継ぎました。

さんへ還元することを目標として
います。

近年の、国内における
小児疾患の状況を教えてください。

日本は少子化が進む一方、医療の
進歩により小児の救命率は大きく
向上しています。その結果、これま
で見過ごされてきた希少疾患や遺
伝性疾患の診断・長期管理が重要
な課題となっています。また、神経
発達症やてんかんなど、慢性的に
経過する疾患への治療対応も求め
られています。

それは、
研究者としての
苦悩が報われた瞬間



これまで取り組んできた
研究の中で、
最も印象的な出来事は
何でしたか。

それは、福山型先天性筋ジスト
ロフィーの治療法につながる決定
的な手応えを得た瞬間です。
夜が明け始めた午前4時頃で
した。放射線を検出したフィルム
の撮影画面に、それまで追い続け
てきた「バンド」が現れたとき、息
をのむような、身体が震える感
覚に包まれました。まさに研究者
としての苦悩の時間が、一瞬にし
て報われた瞬間でした。

研修医時代、目の前の患者さん
を救えなかったときの無力感は、今
も心の奥に残っています。治療法
のない疾患に対して、自ら設計した
核酸という分子を用い、病態そのも
のに介入できるかもしれない――。
その可能性が見えたとき、研究と
臨床が初めて一本の線でつながった
ような、特別な感動がありました。

最後に、
高知県民の皆さんに向けた
メッセージをお願いします。

一人の小児科医として、手探りで
始めた研究が、多くの方々の支えを

得て患者さんの未来を変えるかもし
れない。その重みと喜びこそが、私の
研究の原動力になっています。

高知は、人の温かさと自然の豊か
さが共存する、魅力的な場所です。そ
して、高い志を持つ後輩たちが集う母
校の地でもあります。ここで、次の時
代を担う医師や研究者が育っていく
環境を整えることこそが、自分の役
割だと思っています。

一人でも多くの患者さんが笑顔で
暮らせるよう、新たな治療法の研究
に、これからの地道に、そして粘り強
く取り組んでいきます。



小児科スタッフ
高知大学医学部小児科の医局員と秘書のみなさん。
「一番自慢できるもの」は、この人たちです。

小児科 教授
池田 真理子 (いけだ まりこ)

【経歴】
1997年 高知医科大学医学部医学科 卒業
2006年 大阪大学大学院医学医系研究科 博士課程修了

2006年 大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝学教室 特任研究員
2008年 大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝学教室 特任助教
2011年 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野 特命助教
2013年 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野 特命講師
2014年 神戸大学医学部附属病院遺伝子診療部 副診療部長(兼任)
2015年 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野 特命准教授
2017年 神戸大学医学部附属病院遺伝子診療部 診療部長(兼任)
2018年 藤田医科大学病院臨床遺伝科 病院准教授
2018年 藤田医科大学総合医科学研究所分子遺伝学講座 特別研究員(兼任)
2021年 藤田医科大学研究推進本部医学研究センター池田研究班 特別研究員(兼任)
2021年 国立精神神経医療研究センター遺伝子治療研究部 特別研究員(兼任)
2025年 高知大学医学部小児思春期医学講座 教授 現在に至る

【専門分野】 小児・神経・筋・先天性疾患・希少難病

【専門医等資格】 日本小児科学会小児科専門医、日本人類遺伝学会
臨床遺伝専門医、日本人類遺伝学会指導医、日本小児神経学会
小児神経専門医、日本小児科学会小児科指導医

小児科医

池田真理子大解剖

飼いたい動物

細胞と実験動物をたくさん飼っているの、
今は間に合ってます

眠れない時の解決法

眠らない

研究に疲れた際の解消法

仕事に疲れることはあっても、
研究に疲れたことはまだありません

「やる気」に最も火がつく時

治療実験がうまくいったとき。
大体深夜の3時か4時が多いです

ちょっと恥ずかしかったエピソード

毎日、ちょっとずつ恥ずかしいです。
いっぱいありすぎて書ききれません(笑)

これから行ってみたい場所

国会議事堂(小児医療をもっと良くして欲しいと、
首相に直訴したいです)

80代からをどう過ごしたいか

ムエタイ婆さんでい続けたい(笑)

生まれ変われるとしたら男か女か。また、何をしたいか

生まれ変われるなら女性で、小児科の医師です。
そして研究に没頭したいです

人生の最後に誰かに向けて口にする言葉

「ありがとうね！」

これまで生きてきて、
最も心に残っているエピソード

私の長男は先天性の病気を抱えており、大きな手術
が必要でした。CT画像を目の前にして医師から告知
を受けたあの日、頭が真っ白になったあの瞬間を今
でもはっきりと覚えています。それは、医師である
私が初めて「患者の母親」になった瞬間でした。

同時に、“これまで、自分は患者さんやご家族
にきちんと寄り添えていただろうか。告知を受
けることがどれほど重く、つらいものか、本当
に理解していたのだろうか”――そんな思いが
一気に押し寄せ、金槌で頭を打たれたような衝
撃を受けました。そのとき、多くを語ることなく、
ただ静かにそばにいてくれた恩師や同僚たち
の「言葉にならない支え」が、どれほど大きな力
になったかを、身をもって知りました。

この経験から、私もまた、患者さんにそっと寄り
添える小児科医になりたいと強く思うようになりまし
た。息子は現在、元気に“絶賛反抗期”の真っ最中で
す。どんなに手を焼くことがあっても、「生きていてく
れてありがとう」と心から思っています。

自分の性格、個性を3つの言葉で

粘り強い、好奇心旺盛、思い立ったらすぐ行動

ニックネーム、呼び名の年代変化

たにまり(中学の頃)→まりげら(高校生の頃)→
まりこせんせい(現在)

小学時代、一番苦手だった科目

実はありません、全部好きでした

私が好きなもの

- 作家／ミヒヤエル・エンデ
- 音楽／バッハ、チェロ
- 食べ物／パン、ごはん、カレー
- 映画／プラダを着た悪魔(続編も、もちろん観ました)
- 場所／ノースバンクーバーの海(留学先。行き詰まると、海と夜景を見に行きました)
- 色／東山ブルー(東山魁夷が描く絵の青。教授室に絵を飾っています)

現在ハマっているもの

- ・ムエタイ
- ・家族・親しい友人たちとたまに行くゴルフ

◀通っている
ジムにて、久し
ぶりに主人と
スパーリング

宝 物

家族との時間

いま一番欲しいもの

時間(1日60時間くらい欲しいです)

ご主人との馴れ初め

中学時代好きだった人に、なぜかその人の弟を
紹介されてお見合いしました(笑)

一番尊敬している人物



私と仲良くしてくだ
さる方すべて
たくさんの論文を
書き、生涯研究を
続けた曾祖父

◀たくさんの論文を書
き、生涯研究を続けた
曾祖父。「不治の病を治
すんだよ」の原点です。

一番自慢できるもの

高知大学医学部小児科の医局員と
秘書さんたち。そして息子です

家族にも絶対知られたくない秘密

何でも顔にでるので、秘密はないですね(笑)

池田 昨年、28年ぶりに母校の高知大学へ帰ってきたのですが、伊勢先生も医師活動のほとんどを地元の東北地方でされていたんですね。気候も風土も正反対の高知へ、ようこそお越しくださいました。

伊勢 はい、真逆も楽しいです。これまで培ってきた経験を高知大学で活かせたらと思っています。

こちらに来て、一年近くが経ちましたが、高知は東西に長く、他県に比べ移動距離や時間の面で医療リスクが高いと感じています。そのため、将来的には本院で都市部と同等の高いレベルの治療を提供できる体制を整えたいという思いが、より強くなっています。

池田 それは本当に嬉しいですね。高知も例に漏れず、目に見えて子どもの数は減っていますし、小児科の専門分野が細分化される中で、特定の疾患に対応できないケースも増えています。

今後早急に必要なのは、緊急時に医療資源を集約できる体制の構築です。そうした仕組みがなければ、本来救えるはずの命が救えない状況が生じかねません。

小児科医の担当領域とはどこまでか

伊勢 たとえば小児科や小児外科で、それぞれ何が専門なのかが明確になればいいのですが、人の入れ替わりもあるため、なかなか難しいのが現状です。

小児外科では、一般外科のように消化器、気道系、腫瘍など幅広く対応していますが、対応が難しい場合は、外部の病院に依頼する体制を作り上げなければな

利用して、横の繋がりも重視し、都市部の医療との格差を見える化するなど、高知大学発の取り組みができたと思います。

昭和の医療は、押しつけずに伝える

池田 近年、残念ながら小児科医を選ばない医師も多いなかで、その流れを踏まえ、小児医療の魅力をどのように再定義するかが重要な課題です。伊勢先生はどう考えてですか。

伊勢 当時は小児外科の魅力など自分が感じていたことを人に語ることはありませんでした。が、これから若い医師たちの本音を引き出すことが必要になってきているのかもしれない。

池田 私たちはおそらく昭和の医療スタイルの最終世代で、今の医師たちは令和最初の世代なので、違っているのは当たり前です。働き方改革も人間の尊厳という観点では正しいことだと思います。しかしながら、実際にそこが強調されると、私たちが叩き込まれながら経験してきた昭和の医療が軽んじられているように感じます。

一方で、限られた医療資源の中で患者に向き合い続けてきた姿勢そのものにも、大きな価値があると考えています。

こうした歴史の中で培われてきたものを押しつけるのではなく、小児医療とはこういうものだったんだ」と令和の医師たちに知ってもらうことが、意識に厚みを持たせる大きなきっかけになると考えています。

伊勢 その考え、大賛成です。今ここにいる私たちが、その火付け役にならないかなと思います。



りません。つまり、チーム医療を円滑に進めるための専門医がいなければ成り立ちません。

池田 小児科も小児外科も、本質的には特定の臓器だけでなく、全身を総合的に診る必要がある点に特徴があります。

一方で、その役割を担う人材は十分とは言えず、特に小児外科医は極めて少ないのが現状です。本来であれば、成人医療と同様に臓器別にバランスよく機能する体制が望まれますが、現実には一人がすべての臓器をみるといった大きな課題を抱えています。

こうした人材不足は日本に限った問題ではなく、世界的にも共通する課題として認識されています。

伊勢 はい、世界的にも小児外科医は少なく、それだけ貴重な存在で、アメリカなどでは外科の中でも優遇されています。

日本では残念ながら、小児外科だからといって優遇されることはなく、小児外科医を目指す若手は少なくなっています。

やなせたかし先生の精神が、やがて日本中の小児医療を救う!?

伊勢 最近、先生が香美市のアンパンマンミュージアムに行かれたと伺いましたが、何か取り組みをされているのですか？

池田 やなせたかし先生の「人のために尽くす」という精神を、高知大学小児科の理念と重ね合わせた取り組みを行っています。

先日、香美市ならびに公益財団法人やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団の皆様と面談し、高知県の子どもたち、そして過疎化が進む地域に対して、高知大学医学部附属病院小児科として果たすべき役割について意見交換を行いました。

私たちが目指しているのは、地域で生まれたすべての子どもたちが、どこにいても安心して医療を受けられる環境を整え、そのご家族も含めて支えていく体制を構築することです。そのために、地域医療の中心に子どもたちの健康を据え、医療行政・地域が

小児医療におけるネットワークの必然性

池田 地方では、専門医取得のために県外へ出る必要があり、その経済的・時間的負担は都市部とは異なる制約となっています。

高知に赴任して感じたのは、地域医療ネットワークの中で小児医療の役割を再定義し、その価値を明確に示していく必要があるという点です。都市部中心の医療環境しか知らなかった自分にとって、地方医療の現実は大きな課題として迫ってきました。

地方病院の抱える現実に直面した際も、言いようのないもどかしさの中で、少しでも早くこうならなければならないという焦りや不安を抱え続けた一年でした。それまでの私も含め、地方病院だけと関わってこられた皆さんには、都市と地方の医療格差がなかなか見えにくいのではないかと思います。

伊勢 私も逆に、地方の病院を渡り歩く中で、同様の気持ちを持ち続けてきました。

高知では人が少ない代わりに、小児科医と小児外科医だけでなく、施設に関わる人や親御さん、あるいは学校の先生と情報共有する場が必要です。オンラインセミナーを

一体となったネットワークを構築し、情報のリアルタイム共有によって救急対応や専門医へのアクセスを最適化すること

で、地域全体の小児医療の質の向上につなげていきたいと考えています。

いま無医村で働

かれている高齢の先生方

が倒れた時、代わりの医師がいなかったという課題があります。そのため、寄附講座を通じて地域全体を管理することで、医師の派遣やドクターカーによる治療までを視野に入れていきます。さらにそのネットワークは都市部の医師とも連携しており、情報共有を通じて高知の医師も助言を得られるため、医師・患者双方にとってメリットのある仕組みとなります。

そんな素晴らしいシステムの構築に向けて奮闘しています。

伊勢 池田先生、その医療システムが構築されることで、きっといくつもの懸念材料が解消されてきそうですね。

池田 そうなればと願っています。たとえば僻地で生まれ、手術が必要な患者さんの情報が即座に大学に届き、県内外の医師や行政、保健所、さらに市の職員も同時に把握できる、夢のようなシステムです。

やなせたかし先生の精神から生まれた営利目的ではない寄附講座が、やがて日本の小児医療を担ってくれることを願っています。

小児科 教授

池田 真理子

(いけだ まりこ)

対談

[ゲスト] 小児外科 特任教授

伊勢 一哉

(いせ かずや)

まず、地方の小児科ならではの取り組み方を見つけ出すこと

福島県を拠点に長期間、東北地域の小児医療に携わり、昨秋、高知大学医学部に着任した小児外科 伊勢一哉医師と本院小児科 池田真理子医師が、現在直面している課題や今後注視すべきテーマ、そして使命と感じている取り組みについて語り合った。



小児外科学 特任教授
伊勢 一哉 (いせ かずや)

【経歴】

1992年 福島県立医科大学医学部 卒業
2004年 福島県立医科大学 医学博士 取得

1992年 福島県立医科大学第一外科 副手
2003年 福島県立医科大学第一外科 助手
2007年 福島県立医科大学第一外科 助教
2009年 コロンビア大学肝臓外科オブザーバー
2010年 福島県立医科大学臓器再生外科 講師
2014年 福島県立医科大学附属病院 小児外科部長
2015年 岩手医科大学外科 特任講師
2016年 国立病院機構福島病院 小児外科部長
2017年 仙台赤十字病院 小児外科部長
東北大学小児外科 臨床准教授
2022年 東北大学小児外科 臨床教授
2023年 山形県立中央病院小児外科 科長
2025年 高知大学医学部外科学講座小児外科学 特任教授

【専門分野】

小児外科一般、新生児外科、重症心身障害外科、再生医療

【専門医等資格】

外科学会専門医・指導医、小児外科学会専門医・指導医、
周産期・新生児医学会認定外科医